

日本の昆蟲學史に就いて

江崎 悌 三

(昭和10年4月6日例會にて講演速記)

暫くの間御清聴を煩わせて頂きます。今日は實は例によつて昆蟲學會御得意の座談會か何かあるやうに考へて居りましたので極く軽い意味に思つて居りまして、一向用意もいたしませんでいろいろお目にかけるものも持つて來ませんでしたから簡単に感想だけを申し上げます。今日は村田・桑山兩氏の有益なお話を承りましたので、これ以上私がつけ加へてつまらない事を申し上げる必要はないやうな譯であります。私のお話申し上げる標題は「日本の昆蟲學史に就いて」といふ事になつて居ります。實を申しますと唯今外國に於きまして現代では非常に専門専門に分れまして實際1人の人が扱つて居る問題は場合によつては非常に限られた特殊の問題を扱つて居るといふ状態になつて居ります。それで日本に於きましても最近外國の先進國に較べて決して優るとも劣らない程の見上げた進歩をして居るのであります。そこで我々が何か仕事をいたしますに就いても最初に自分の關係して居ります研究の今までの経過といふ事を頭に入れて置く事は最も必要な事だと存じます。それに依つて自分達の先覺者達がいかに苦心したかといふ事に就いても教へられる點が多いので、近頃は何も昆蟲學に限らず科學の歴史の研究といふ事に注意をするやうになりました。所が昆蟲學の歴史を見ますと、日本では實際の本當の歴史が發表されたものはないと言つても差支ないと思ひます。今まで歴史として發表されたものは極めて低級な本の目録と同じやうな事しかないのであります。それでは今まで自分達の先覺者がどういふ事をしたかといふ事をはつきり掴む事は出來ないだらうと思ひます。どうしても我々が現在いろいろの問題を扱ふに當りましても何かそこに纏つたその問題に關する從來の歴史を頭に入れる事が出來るやうな報告を切望して居る譯であります。それで歴史を編纂するといふ事は容易な事ぢやない事は勿論でありまして、先づ第一に資料を集める事が先決問題であります。所が資料は時が経てば経つ程蒐集は困難になつて來るのでありますから、一刻も早く蒐集に着手すれば能率が上りいゝ結果が得られるのではないか

と思ひます。古くからの歴史を辿る事になるとずつと古い時代の人間と昆虫の折衝といふ所から出發しなければならなくなるのであります。昆虫學が漸く科學の體形を具へて興つて來たといふのは支那からはいつた本草學の影響からであります。蘭山のやうな大家が出て本草學といふ形が出來、いろいろ分化して尾張の本草學、江戸の本草學といふやうなものが出來、更に洋學・蘭學の影響を受け、さうして明治の前後から本當の獨立した昆虫學が起つて來た譯であります。さういふやうないろいろの立場から見た資料を廣く集めるといふ事が歴史を編む上に一番大事ぢやないかと思ひます。それからもう一つは、所謂純正昆虫學の立場から見た昆虫學史が必要であります。日本の昆虫の研究になりますと、明治以前から明治の始めにかけて外國人が先鞭をつけて居るものが多いのであります。勢ひそれ等の資料を集めるといふ事も實際は容易な業ではないのであります。それを1人の人又は數人の人がこれに當るといふ事では到底完全な事は出來ないだらうと思ひます。どうしてもかういふ事は矢張り一つの公の中心があつて、その中心が主體となつてかういふ仕事に當つて行かなければ出來ない事だらうと私共は考へるのであります。さういふ意味に於きまして東京昆虫學會といふものは現在日本の昆虫學の一つの最も重要な中心でありますから、さういふものが主體となりそこに一つの中心が出來てかういふ資料を集めるといふ事は非常に意義深い事ぢやないかと思ひます。それによつて得られた資料といふものを或る方法で整理しまして次第に公にして行けば、そこに日本の昆虫學史の大勢といふものが得られると思ひます。さういふ資料はどこにあるかといふと出版された印刷物にある者もあります。又それが古いものは忘れられて居り、又存在が知られて居つても見る事が出來ないものが澤山あります。又人の書き残したものもありますが、さういふものを集輯するにはどうしても矢張り大勢の人の盡力を願つて行かなければならぬと思ひます。それからもう一つはさういふ日本の昆虫學に關係した所の先輩の人達の傳記の資料であります。又更にさういふ出版物を整理して正確に記録して保存するといふ事は資料を集める上の重な仕事であらうと思ひます。さういふ記録があれば正しいかどうかといふ事も後に考證がつくのであります。何れにしてもさういふものを是非集めて頂きたいのであります。それに就きましてこの席上で東京昆虫學會が中心になつて頂いて完全な蒐集といふ事に就いて一肌ぬいで頂き

たいと思ふ次第であります。私のお話したい事はそれでお終ひであります、東京昆虫學會の方で直ぐ具體化して頂く事が出来ないやうな場合でも是非皆さんがあらゆる機會に於て何か記録に残すべきやうな資料を御發見になつたりしたやうな場合は、何等かの形式で公にされ、更に出版物の中に記録して頂きたいといふ希望を持つて居る次第であります。大變雜駁なお話で誠に申し譯ありません。(拍手)